

## 1. 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		特記・コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
4月	平均気温(°C)	8.5	7.3	10.1	9.2	10.5	11.8	9.7	9.4	月間平年比+0.3°C
4月	降水量(mm)	1.0	51.4	42.5	25.2	21.5	22.8	65.0	99.4	月間平年比65%
4月	日照量(h)	82.1	64.7	74.3	72.7	83.5	70.4	239.9	207.8	月間平年比115%

● 年度別氷点下-10°C以下遭遇(12-3月)16回 \*過去5年で最多は2017の21回。

<p>2021 4月気象ポイント解説</p> <p>気温：最高気温 24.0°C(4/20) 最低気温-4.2°C(4/11) *4月としては過去最高の20°C以上10回 -3°C以下4回</p> <p>降水量：大雨 30.5 mm (4/17) 10.0 mm (4/18) 19.5 mm (4/29)</p> <p>日照量：</p> <p>凍霜害（凍害）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4/9.22時頃～4/10.8時頃（10時間氷点下遭遇） 最低気温-3.3°C。</li> <li>4/10.23時頃～4/11.6時頃（7時間氷点下遭遇） 最低気温-4.2°C。</li> <li>4/27.0時頃～4/27.6時頃（6時間氷点下遭遇） 最低気温-3.2°C。</li> <li>プラム・もも・りんご等花き被害（蕾枯死・めしべの枯死・褐変） アスパラガス・ズッキーニ枯死（凍み）・変形</li> </ul>
--

## 2. 生産の経過・病害虫発生状況・今後の対策

<p>【生産特記 2021】</p> <p>① 生産基盤（推定）：ぶどう 350ha・りんご 150ha・もも 83ha・和梨 12ha・西洋梨 6ha・桜桃 7ha・柿 6ha・プラム 38ha</p> <p>② ハウスぶどう：初出荷 4/25 頃（年内覆被分・ビラックビート）。全体の生育は前進傾向。シャインM縮葉症発生。出荷ピーク7月中旬～。</p> <p>③ ハウスサクランボ：被覆棟数 21 棟 初出荷 3/31～。 4/21 出荷 5 件。ハウス全般結実良好。</p> <p>④ ハウスもも：結実良好、生産量確保。収穫開始 紅国見 5/2～。</p> <p>⑤ ハウスプラム：収穫開始予想 貴陽 5/20 日頃。</p> <p>⑥ りんご：全域でふじの花芽不良（貧弱・欠落等）。二次伸長芽も多い。隔年結果が心配されるため、人工授粉を徹底し生産量確保する。</p> <p>⑦ 豪雪被害：年末～年始豪雪でりんご・もも老木樹等で枝折れ被害あり。北部地帯で減収の一因となる可能性あり。</p> <p>⑧ 凍害：春季の低温遭遇で若木中心に発生が心配される。防寒資材（ワラ他）外しはできるだけ遅らせる対策が必要。</p> <p>⑨ 凍霜害：4/6、4/10、4/11、4/27の低温遭遇により、プラム・もも・サクランボ・梨・りんご・柿等に花器異常を確認。経過観察中。</p> <p>⑩ 生育予想：暖冬・3月記録的高温等により果樹類全体で大きな前進。防除体制は平年より2週間早めの意識必要。</p> <p>発芽：プラム 3/21 もも 3/25 ナシ 3/28 りんご 3/29 巨峰 4/23 シャイン 4/27 *ぶどう平年比▲5程度。南北差はほぼなし。</p> <p>開花：プラム 4/2 もも 4/8 ナシ 4/13 りんご 4/20 巨峰 5/30 シャイン 6/2 *平年比▲10。軒並み過去最速。</p> <p>満開：プラム 4/8 もも 4/13 ナシ 4/19 りんご 4/27 巨峰 6/7 シャイン 6/10 *果樹平年比▲10。ぶどう平年並み予想。</p>
---

<p>【2021 病害虫対策】</p> <p>① 腐らん病：冬季からの早期発生。果台部や小枝の被害目立つ。被害部の削り取りや被害枝の除去は見つけ次第早急に実施する。</p> <p>② せん孔細菌病：開花期から春型枝病斑が枝の中央部および先端部に発生。（密度は低い） 当面は防除間隔を10日で進める。</p> <p>③ 黒星病：りんご展葉後の降雨（4/17～18）で感染拡大心配される。4月末時点の葉の被害はなし。</p> <p>④ 晩腐病：巨峰中心。病源（巻きひげ）除去徹底（早期密度抑制）必要。展葉6枚目（5/10すぎ）からの一定の間隔で防除徹底必要。</p> <p>⑤ 黒とう病：シャインM中心。発芽直前（4/20過ぎ）・展葉2-3枚目（5/1-5頃）の定期散布にて初期の密度抑制対策必要。</p> <p>⑥ 輪紋病：病源であるイボ皮が各地で目立つ。削り取りと場合により梅雨期間のボルドー散布を計画する。</p> <p>⑦ カメムシ：4月下旬から忌避目的の予防散布徹底必要。</p> <p>⑧ カスミカメムシ：ハウスシャインマスカットで被害あり。発芽直後の被害とみられる。</p> <p>⑨ カイガラムシ類：プラム・もも・りんごで寄生目立つ。ウメシロカイガラは5/15前後～、ナシマルカイガラは6月初旬～専用剤散布徹底必要。</p> <p>⑩ ハダニ類：昨年りんご（赤）ハダニ多発園は6月初旬からの早期予防必要。このままいけばナミハダニの発生も早まる見込み。</p> <p>⑪ キンモンホソガ：一部で開花期（4/20前後）から発生確認。</p> <p>⑫ ケムシ類：4月末の発生はほぼない。</p> <p>⑬ アブラムシ類：4月下旬からプラム・りんご等で発生始まる。</p>
---